

1 学校経営グランドデザイン

令和6年度 村山市立楯岡小学校 学校経営 グランドデザイン

- 憲法及び教育関係諸法
- こども基本法
- 学習指導要領
- 第6次山形県教育振興計画(最終年度)

- 村山市教育基本目標
- 村山市教育振興計画2015-2024
- 児童の実態と志
- 本校の歴史と校風
- 地域・保護者・教師の願い

= 学校教育目標 =

志 感動 笑顔

3つの「あ」を大事にする学校
— あきらめない ありがとう あいさつ —

平成30年度制定・令和元年度一部改訂

社会に教育課程を開き
学校評議員制度や
地域等の特性を
生かした
教育の推進

令和6年度教育スローガン

3 COMS コミュカ×2+コメカ

自分で・自分たちで考える 決める 行動する 2nd STAGE

道徳教育(道徳科)と
特別活動(学級活動)の
全校共通で一体的
推進・充実による
学校生活づくり

学校目標が目指す「たてやまっ子」の姿 (自主・知、自立・徳、共生・体の調和)

- | |
|--|
| 志 …自分の夢や希望の実現に向かって「あきらめない」で努力を続ける (自主・知) |
| 感動 …自分を取り巻くすべてのひと・もの・ことに「ありがとう」の気持ちを表す (自立・徳) |
| 笑顔 …自分から進んで「あいさつ」をして、他と関わり合い、支え合う社会を創る (共生・体) |

目指す子供像

一人一人が自らの生活・学習に
「楽しく!」取り組む たてやまっ子

- 1 “自分で、学ぶことが「楽しい!」
- 2 “自分たちで、学ぶことが「楽しい!」
- 3 “大人と一緒に、学ぶことが「楽しい!」

目指す教職員像

“チーム楯小、は「フォア・ザ・チーム楯小!
学校・学年全体が子供一人一人の担任団・応援団

- 1 子供とつくる日常生活と授業を中心に
- 2 子供と故郷を愛し、魅力を発見・発信
- 3 誰とでも積極的に関わり、協働して励む

学校研究における授業を核とした子供主体の学校生活づくり



◎楯岡小学校6年間の学び、一貫性ある子供目線の「楯小スタンダード8」確立

- 1 教育の「不易」と「流行」を見極めながら「令和の楯岡小学校型教育」を実現
- 2 学校研究を核とした「学校生活づくり」と実効性のある授業改善による「学力向上」
- 3 「道徳」と「特別活動」を両輪とした自主・自立・共生の学校・学年・学級づくり
- 4 「生活科・総合的な学習の時間」の充実による探究・創造・表現・発信する学習活動
- 5 「特別支援教育・教育相談」の充実(特別支援学級と交流学級の綿密な連携、不登校及び傾向等児童のニーズに応える指導、家庭や関係機関等との連携)
- 6 「読書活動」の充実(各教科等との意図的関連、市立図書館との連携、読み聞かせ等を通して、児童個々の探究心をくすぐる)
- 7 「幼稚園・保育園・こども園、学童保育等」との連携
- 8 「楯岡中学校区(西郷小・袖崎小・楯岡中)、楯岡地域・大倉地域市民センター等の関係機関や諸団体等」との連携

学校経営の重点

職員室テーマ①
和・話・環・笑・輪
5つのWA
(わか)

職員室テーマ②
フット・ネット
・チーム
3つのWORK
(わくわく)

◎ 楯岡小学校教育の根幹

「新型コロナウイルス感染症の蔓延」による“パンデミック”が始まった頃、「この状況はいつまで続くのか…」と不安を抱えながら、その最後を意味するのは「終息」と「収束」の違いを調べたことがある。そして「いつかは終息するはず！」と願いつつ、感染の「拡大」と「収束」の繰り返しと「収束」の繰り返しを繰り返しながら、教育活動の中止と変更、工夫と努力、理解と協力…を繰り返し続けた足掛け4年の歳月であった。

令和5年5月8日、新型コロナウイルスが感染症法上の2類の位置付けから5類へと変更されたことで、ようやく終止符が打たれた。しかし、このような感染症の「終息」というのは、世界的宣言となるには、非常に難しく、稀なことであることを初めて知った。

コロナ禍における教育の苦労は確かに大きかった。しかし、本校の創立150周年の節目を迎えた今年のコロナ禍明けの教育活動は、それをはるかに超える苦労の連続であった。なぜなら、全てがコロナ禍前の教育活動に戻すこと、そのことへの期待に堪えることが非常に難しかったからである。日本の公教育制度は、1872年(明治5)の「学制」に始まり、1947年(昭和22)制定の「教育基本法」による教育が現在へと続いているが、その時に匹敵するような大改革、あるいはそれ以上のことが「学校判断」で迫られたともいえる内容だからである。

GIGAスクール構想による教育環境の整備が大幅に前倒しされたおかげで、ICT教育環境が確実に整備され、児童一人1台端末を用いた教育が当たり前となった。さらに教育DX化の推進、教育データ等を活用した授業方法や形態等の変革と個別最適な教育の実現など、数え上げればきりが無い“大改革”が今、学校で行われている。さらに、本校の児童数は戦後初めて500名を切り、本市を始め全国の多くの自治体で懸念されている人口減少、少子化による影響、学校規模の縮小や統合などの課題を実感せざるを得ない状況にある。こうした状況を踏まれば、明治、大正、昭和そして平成と築き上げてきた日本の学校における“教育観”や“学校観”のアップデートは必至である。

そこで本校は“世の中や教育の「不易」や「流行」を的確にとらえ、「守・破・離」そして「未来志向」と「挑戦」を大切に歩み続ける教育の推進”を掲げるものである。そして“教育で人を迎え入れる「マグネット・スクール」を目指す学校づくり”を根幹に据えた教育活動を展開することを宣言する。しかし、このことは決して学校のみで実現できるわけではなく、教職員と保護者(PTA、子ども会育成会組織等)、そして地域・関係機関の皆様と“チーム楯小”を結成できて初めて実現に向かうものと考えている。

今、子供たちは、この現実社会を一杯生き抜いている。その一人一人が、勇気と自信をもって未来社会を歩み続けるために、自ら歩む先の未来を豊かに想像でき、夢と希望あふれる社会を自ら創造する力を身に付けられるよう、あらゆる大人がしっかりと手を繋ぎ、子供たちと子供一人一人を守り、支え、励ましなが、よりよい教育環境の実現に努めることが使命であることをここでしっかりと確認したい。 令和6年4月1日 村山市立楯岡小学校教職員一同

I 学校教育目標

志 感動 笑顔 3つの「あ」を大事にする学校

～ あきらめない ありがとう あいさつ ～

平成30年度制定・令和元年度一部改定

学校教育目標が目指す「たてやまっ子」の姿

志	自分の夢や希望の実現に向かって「あきらめない」で努力を続ける	(自主・知)
感動	自分を取り巻くすべてのひと・もの・ことに「ありがとう」の気持ちを表す	(自立・徳)
笑顔	自分から進んで「あいさつ」をして、他と関わり合い、支え合う社会を創る	(共生・体)

令和5年9月3日(日)に楯岡小学校創立150周年記念日の大きな節目を迎え、本校の教育に対する地域や保護者等の関心の高さ、理解や協力の大きさをひしひしと感じ、改めて楯岡小学校が目指すべき教育を考え直すことができた。今年度は151年目の新時代を歩み始める。学校教育目標の具現化のため“令和6年度教育スローガン”の下、新時代に対応できる力を育む学校づくりを子供たちとともに推し進めていきたい。

Ⅱ 子供一人一人に育てたい資質・能力

学校教育目標

志・あきらめない



問題解決力

感動・ありがとう



感じる力

笑顔・あいさつ



人と関わる力

Ⅲ 目指す子供像

自らの生活・学習に「楽しく！」取り組む たてやまっ子

☛キーワードは「楽しく！」（自分で・自分たちで、そして大人も一緒に）



令和6年度教育スローガン

スリー コムズ

3 COMS

Community (コミュニティ)形成力

Comment (コメント)力

Communication(コミュニケーション)力

自分で・自分たちで 考える 決める 行動する 2nd STAGE

1 “自分で、学ぶことが「楽しい！」

- ・学ぶこと自体が楽しい（振り返り、成長する自分の実感）
- ・見方・考え方を働かせて学ぶことが楽しい
- ・自分事としてとらえて考える、解決する、新しく発見することが楽しい

2 “自分たちで、学ぶことが「楽しい！」

- ・自分と異なる意見も取り入れて、より良い学びを得ることが楽しい
- ・仲間とともに学ぶことで可能性が広がるのが楽しい
- ・仲間とともに課題について話し合い、解決していくのが楽しい

3 “大人と一緒に、学ぶことが「楽しい！」

- ・子供と大人が一緒になって授業をつくる・学習することが楽しい
- ・大人から得られる学び、語りや雰囲気、過去も未知の世界も知ることが楽しい
- ・大人に教わる知識が、経験を通して知恵となり実となり技となるのが楽しい

Ⅳ 目指す教職員像

“チーム楯小”は、「フォア・ザ・チーム楯小！」

学校・学年全体が子供一人一人の担任団・応援団

- 1 子供とつくる日常生活と授業を中心に考え、常に課題意識をもって自己研鑽に励む教師
- 2 子供と故郷（楯岡・大倉、村山、山形、日本、世界…）を愛し、魅力を発見・発信する教師
- 3 周囲のひと・もの・ことに積極的に関わり、教師と保護者、地域と協働して励む教師

V 学校経営の基本方針 ❶ 創立151年、令和の新時代の教育の実現

世の中や教育の「不易」と「流行」を的確にとらえ、
「守・破・離」そして「未来志向」と「挑戦」を大切にして歩み続ける
～教育で人を迎え入れる「マグネット・スクール」を目指します！～

- 1 強く、豊か、そして、しなやかに「“生き抜く力＝学力”を身に付ける」学校づくり
(1) 実効性のある日常の授業改善と充実を図る「令和の楯岡小学校型教育」の構築
(2) 子供が自ら育つ教育実践のために学び続ける「フォア・ザ・チーム楯小」の団結
(3) 子供一人一人に確かな資質・能力を育む「カリキュラム・マネジメント」の確立
- 2 心地よく学び、共によりよく生きるための「温かな人間関係を育む」学校づくり
(1) 「社会の仕組み」を学び、「人と人とのつながり」を実感する場
❶ 学校生活において子供一人一人が試行錯誤を繰り返しながら、新時代に対応する「社会の仕組み」と「より良い社会創り」とは何かについて実践を通して学ぶ場である。
(2) 『学校いじめ防止基本方針』に基づく教師の意図的・計画的な「居場所づくり」と子供たちの自主的・主体的な「絆づくり」による望ましい集団活動を実践的に学ぶ場
(3) 「生徒指導実践上の視点（自己決定の場の提供、自己存在感の感受、共感的人間関係の育成）」を生かした指導を通して、居心地のよい生活・学習空間を体得する場
- 3 教職員が“生き生きと”働き、子供に「志・感動・笑顔」をもたらす学校づくり
「和・話・環・笑・輪の5つのWA(わっか)」と「フット・ネット・チームの3Work(わくわく)」
(1) 教職員が「生き生きと学び・働く姿」を示し、その姿を通じた子供一人一人への教育
❶ 「働き方改革タスクフォース」による確かな提言と確実な実践
(2) 生徒指導・教育相談・不登校等に対する日常的な「研修と対応、積極的な指導」
❶ “最も困っているのは当事者である子供”であるとの視点に立ち、未然防止、迅速かつ適切な初期対応、保護者に寄り添い、大切な子供を共に育てる良好な関係を築く。
(3) 「ワーク・ライフ・バランス」の取れた働き方・生き方の推進と「人間力」の高まり
❶ 「仕事は、目指せ3割！ 要所1割!!」 “ゆとり（A・S O・B A）”が好結果を生む。

VI 学校経営の重点

◎楯岡小6年間の学び、子供目線で一貫性のある「楯小スタンダード8」確立

- 1 アフターコロナへの的確な対応と「令和の楯岡小学校型教育」を実現する教育活動
(1) 全学年で毎年学級・担任替えを行い、学校教育目標に基づく、学年経営と学級経営
(2) 学年・特支担任団一人一人が、在籍児童一人一人の担任として子供を育てる。
※学級担任は子供・保護者等の窓口担当としての位置付けである。
(3) 日常の授業におけるICT機器や手法を生かした教育の推進を図る。
(4) 子供一人一人が、文房具の一つとしての一人1台の「PCタブレット」を最大限に生かした学習と生活づくりに取り組ませる。
- 2 学校研究を核とした「学校生活づくり」と実効性のある授業改善による「学力向上」
(1) 「3つの対話」と「自立」を手掛かりに学びを深める子供を育成する。
(2) 「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を有効に関連・活用しながら、日常的な授業改善と充実を図る。
(3) 日常的に授業を見合う、見せ合う開かれた授業研究を通して、ベテラン教員のもつ教育・指導技術と若手教員の教育・指導意欲の融合を図り、現職教育研修を充実させる。
(4) 村山市の重点施策「いい授業づくり」実践プロジェクトと連携し、指導力向上を図る。
(NRTや全国学調、マスプロ評価問題等の単元活用など)

- 3 「**道徳**」と「**特別活動**」を両輪とした**自主・自立・共生の学校・学年・学級づくり**
 - (1) 学級における「道徳」と「学級会と当番・係活動、集会活動」の確実な実践を図る。
 - (2) 学級での実践を生かし、より大きな集団（学年や学校全体）で行う「児童会活動」「クラブ活動」「学校行事」で試し、発揮し、自主・自立・共生の力を伸ばす。
- 4 「**生活科・総合的な学習の時間**」の**充実**による**探究・創造・表現・発信学習活動の充実**
 - (1) 各教科等で身に付けた資質・能力を生かし、試し、発揮する場として機能させる。
 - (2) 「餅は餅屋」積極的に地域や専門家に学びの場を求め、子供はもちろん、教師も共に学ぶ姿勢を大切にする。
- 5 **特別支援教育の更なる推進と充実**（特別支援学級と交流学級の綿密な連携、不登校・不登校傾向等児童への対応と指導、家庭や関係諸機関等との連携）
 - (1) 特別支援コーディネーターを中心に、常に現状を把握、教職員間の連携、情報の共有を大切にして組織的に対応する。
 - (2) 指導方針・個別の指導計画などについて、特支学級と交流学級担任が、各家庭と共通理解を図り、一人一人の困り感に適切かつ誠意をもって対応する。
 - (3) 特別支援教育の理解と指導力を向上させるために、校内研修体制を整える。
- 6 **読書活動の充実**（各教科等との意図的関連、市立図書館との連携、読み聞かせ等）
 - (1) 各教科等の学習や生活と関連させ、「情報センター」として学校の中心に位置する「学校図書館（たてやま図書館）」を全校児童が集うオアシスとなる環境づくりに努める。
 - (2) 「村山市立図書館」と「はやま号」、「PTA 家庭サポート部と保護者ボランティアによる読み聞かせ」や「読書ボランティア」等と連携した読書活動を推進する。
- 7 **こども園・幼稚園・保育園、学童保育施設等との連携**
 - (1) 個々の発達や人間関係、家庭等の課題により特別な支援を必要とする児童に関する指導情報を必要に応じて共有しながら、児童個々のよりよい生活づくりに寄与する。
 - (2) 1年生ではカリキュラムの弾力的な運営を行い、小学校生活や学習に適応し、安定した教育活動ができるようにする。
- 8 **楯岡中学校区、楯岡地域・大倉地域市民センター等関係機関や団体等との連携**
 - (1) 「楯岡中学区連絡協議会」連携内容を全職員が共有できる体制を整え、基本的な生活リズム・学習習慣等の育成に努める。
 - (2) 楯岡地域では「〇〇公民館学校」、大倉地域では「大倉地域市民センター学校」などを学年や学級単位で開設、積極的に地域に出向き、郷土のひと・もの・ことを学ぶ。

Ⅶ その他（地域社会に生きる人づくり）

- 1 「**たてやま運動**」で明るくさわやかな学校づくり ―平成15年度児童会制定―

た	えない笑顔で	あいさつ名人
て	きばき働く	しごと名人
や	さしい心で	しんせつ名人
まい	いにちさわやか	げんき名人

- 自分で・自分たちで考えて、決めて、行動する（時間と場所の確保も含む）
- 児童会主体の取組として一層推進

- 2 **楯岡小のシンボル「楯山」の資源を生かした教育活動** ◀+大倉地区、もちろん楯岡も
 - 楯山を知る・・・楯山の植物や生き物、岩など 楯山の散策道
 - 楯山を感じる・・・新緑のグラデーション 紅葉 風の香り
 - 楯山に親しむ・・・遊ぼう楯山、登ろう楯山、描こう楯山、調べよう楯山
 - ※楯山を最大限に生かしたひと・もの・こととつながる教育活動をデザインする
- 3 **特設特別活動の継続推進と将来的に持続可能な地域移行体制の確立**
 - 「特設特別活動」として位置付けてきた下記の部・クラブについて、楯岡小の歴史と伝統を継承しつつ、時代に即した持続可能な教育活動として地域移行体制を確立させていく。
 - 合唱部（R5~地域と協働） ブラスバンド部（R4~地域、クラブ活動併用）
 - 陸上部（R5~地域と協働） 居合道クラブ（クラブ活動として地域と協働）